

27AB-pm427

薬学部生と他医療学部生のタバコに関する調査（その1）

○田中 三栄子¹, 川嶋 恵子², 小本 健博³, 設楽 拓哉¹, 小松 健一¹ (¹北海道薬大, ²北海道科学大, ³ココカラファイン)

【目的】近年、分煙から敷地内全面禁煙化と移行する大学が増えてきている中、同じ学園内の医療系学部学生（北海道薬科大学、北海道科学大学）のタバコに関する調査を実施した。

【方法】1年生を対象にアンケート調査を実施した。調査方法は無記名質問紙法、データ処理は株式会社エスミ Mac 解析 Ver2.0 を使用し、解析を行った。調査内容は、喫煙状況、喫煙防止教育、副流煙の影響、家族の喫煙状況、健康被害、受動喫煙防止法であった。

【結果】基本属性は、薬学部 216 名、保健医療学部 221 名の合計 437 名であった。学生の喫煙率は、薬学部 0%、保健医療学部 1.8%であった。喫煙防止教育の受講率は、『一度も受講したことがない』薬学部 0%、保健医療学部 4.1%であった。副流煙の影響を受けている学生は、薬学部 43.5%、保健医療学部 54.3%であった。また、家族の喫煙状況は、『父親が喫煙者』薬学部 74.7%、保健医療学部 76.2%であった。タバコの健康被害についての認識は、『肺がん』『歯周病』『肺気腫』などが高率であった。また、『受動喫煙防止法の成立に賛成』する学生は、薬学部 82.4%、保健医療学部 75.1%であった。

【考察】親世代は義務教育で喫煙防止教育を受けていないが、学生は幼少期から喫煙防止教育を受けている。そのため学生の喫煙率は低く、タバコによる受動喫煙や健康被害についての認識が浸透してきている。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、受動喫煙防止法の制定に賛成する学生が学部に関係なく過半数を占めている事は、喫煙防止教育の大きな成果と思われる。受動喫煙のない健康社会を目指すことを、次世代の医療従事者である学生達に託したい。